

教育・研修を実施する場合の留意点

(1) 階層・内容レベル別を実施する

教育・研修の効率性・実効性を高めるために、階層・内容レベル別を実施する視点が必要です。次表の区分例を参考にして下さい。具体的実施内容は、各学校の現状に応じて、学校管理者及び個人データ管理責任者を中心に検討します。

対象	内容例
新入教職員	法制度や内部規程、実務に関する基礎教育
新入非常勤教職員(講師など)	
在籍教職員	法制度や内部規程改正点の確認、運用上の問題点解決のためのディスカッション
在籍教職員(管理職・専門職)	法制度や内部規程改正点の確認、運用上の問題点把握及び解決のためのディスカッション
在籍非常勤教職員(講師など)	法制度や内部規程改正点の確認、実務に関する問題点の確認

(2) 定期的を実施する

教育・研修の効果は、一度実施するだけでは維持されません。学年歴などに、少なくとも毎年1度はスケジュールとして組み込んでおく必要があります。

(3) 外部団体・機関を活用する

第三者が学内に入ることにより緊張感が生まれ、効果の高い教育・研修の成果が期待できます。個人情報保護に関する教育・研修のニーズの高まりを背景に、様々な研修実施団体・機関が存在しています。